

電氣通信學會雜誌第314號

第33卷 (昭和25年7月) 第7號

講 演

就 任 の 挨拶

会 長 林 一 郎 (昭和25年5月10日
於第24回通常總會)

此の度、篠原さんの後を受けまして、私が会長に推薦、指名せられました事は、此の上ない名誉と存ずる次第であります。然し乍ら此れ迄色々此の学会に貢献せられました諸先輩の方々を想起致しますと、私如き者が会長に選ばれました事は、誠に当を得ないと考えるのですが、指名せられました以上は、本学会の目的達成に、全力を注いで努力致す覚悟であります。

本学会の目的と致します所は、やはり日本に於ける電氣通信が、其れが事業であれ、又其の他のものであれ、何がしか此れに関連しまして、貢献する所にあると考えるのであります。

私共は、此の電氣通信事業の運営の一端を引受けて居りますが、皆様御存じの様な不十分な経営を致して居りまして、真に申訳ないのですが、只今八木先生からもお話がありました様に此の事業は国民全部のものでありまして、一般の方々の御信任は勿論、学者の方や事業家の方、又生産に当られる方々の色々な御支援を得ないと、其れが健全な発達を遂げる事は非常に難しいと云う事を私達経営に当る者は感じて居るのであります。

此の席で申し上げるのも如何と思うのでありますが、そういつた意味から私共の電氣通信の状況に就いて、此の際極く簡単に申述べて具体的問題の所在を明かにして見度いと存じます。

皆様は恐らく電話をかける度に電話は一体どうなつて居るのか、ちつとも通じないではないかと、非常な憤懣を感じて居られる事は我々自身よく存じて居るのであります。然し此の電話の通じない最大の原因はやはり施設の本体にあるのでして、此の施設の本体と申しますのは、量的の不足と質的な脆弱さに其の原因があるのです。

此処でアメリカの電氣通信の事情と比較する事は当を得ないのですが、最近アメリカの電氣通信の事情を視察して来られた方々の話を承りますと、アメリカには4,000万箇の電話機があるそうでして、丁度100名に対して28箇位の電話機に相当するのであります。日本では今、150万の電話機がありまして、100名に対

して2.8箇の割合になつて居り、丁度10倍の差があります。更に此の内容を調べて見ますと、今東京とか大阪の様な大都市では一遍でかゝる電話が40パーセント位になつて居りまして、10回の中6回は一度ではかゝりません。更に都市の中心部に於ては、10回の中2回位しか一遍でかゝらないといつた状態でありましてアメリカの都市に於る一遍でかゝらない電話25パーセント程度、と云う数字に比べ私達の電話が如何に通じない電話であるかと云う事がわかるのであります。

然し乍ら、日本でも嘗ては75パーセント位が一遍でかゝる時代があつたのでして、此の電話をどうすれば当時の様な電話にする事が出来るかと終戦後非常な努力が拂われて来たのですが、何と致しましても、此れは私共だけで解決出来る事ではないのでして、其れには生産品の質的、量的及び時間的な問題があり、又資金の問題、更にまた人的要素の問題等、幾多の問題を解決しなければならなかつたのであります。即ち夫等諸問題の存するため、戦災施設は容易に復旧せず、亦戦争後加入者分布状況の変動に対する施設の増設も思う様にならなかつたのであります。今日ではこう云つた問題も次第に解決されてまいりまして私達の電話も動脈硬化の状態から解放される時機もそう永くはない事を御報告申し上げたいのであります。

尚こういつた通話の不良に対しては、具体的にどうやつて居るか申しますと、老朽施設を逐次重点的に取替へて行く一方此の新しい通話の流れに対応する様不足する局内の中継線を新設して居ります。又通話度数の多い加入者の方々が非常に増加して居るのですが此れは戦災を受けた加入者の電話を復旧する時に此の加入者を第一需要として参りました事情に依つて、一回線当りの通話量が増えているのですが、こういつた非常に忙しい通話者に対しては、御願ひして加入電話を増やそうと云う事になつて居ります。

又、例えば数箇の電話機が一箇所にひかれて居る場合には、成る可く代表番号制度にして最初の代表番号に電話すれば、その加入回線の空いている回線が選ばれて能率良く使われるように整備中でありまして、

此様に致しまして、私共は通話率を良くするために施設の増加に努力致していますが、他面に於いては、やはり一般の方々の御努力を得なければ此の問題は解決しないのであります。

要するに、私共は出来るだけ多くの電話機を増し、之に関連する施設を増設致しまして、其の施設が能率的に使われて、安く便利に使つていただける電話にするよう日夜苦心しておる次第でありまして、此の際一言申し上げた次第であります。

次に、本学会との関係であります。先程八木先生から非常に良い御話を承つたと思つて、結局現在のものを如何にして良くするか、と云う問題は学校、会社を始め多くの部門からの研究結果を総合して行かねばならぬ問題ではないかと考えるのであります。之には問題の具体的内容を私共が各方面の研究者に明示して御協力を願う努力も又大変必要な事になると存じます。こうした問題は一般には非常に地味な問題が多いのですが、かゝる問題の解決こそ現在特に重要であり具体的に役立つ事も多いと考えます。

就いては、私共電気通信省と致しましても、昨年6月からは新機構のもとに電気通信研究所が出来まして此の事業のためにいろいろと解決しなければならぬ問題を沢山持たれまして、その解決に当られて居ります。現在御願ひ致して居ります問題が300にも上つておりますが、之等の問題は必ずしも高級な発明技術というだけではなく、現在当面している非常に卑近な問題を解決していただく事になつて居りまして、非常な成果を挙げて居ります。

其の二・三の例を申し上げますと、只今御紹介有りました様に旧三号電話機に比べて、明瞭度が約十デシベルも改善された新型電話機が出来まして、私共の事業のために恐らく数億を出るであろう所の利益をもたらしていると思われるのであります。またマイクロ・ウェーブの問題も研究して居まして、本年度内には一部実用化のための試験に移る事になつて居ります。更に、無装荷ケーブルに就いては現在、6通話路で実施して居りますが、愈々24通話路方式の実用化を試験する事が出来る様になり、只今、東京と静岡の間で通話をやつて居りますが、極めて良好な成績を収めて近く其の試験施設を實際の需要に移しますと同時に、東京大阪間に24通話路方式を実現すべく、本年度に於ては其の第1年目の工事を実施する事になつて居る次第であります。

又、電信の関係では、スピードの点では現在相当改善されたのですが、尙3~40億も赤字になる様な電信経営であり、各国共此の経営は非常に難しいのであります。日本は此れが特に甚しいのであります。勿論此れは配達の機構にも改善すべき点もありますが、機械設備が非常に古く方式の欠陥等もあつて、此の問題

の解決にも鋭意努力されて居ります。例えば、現在の電報は平均致しますと約2回位中継されて居るのですが、中継毎に人手で中継するので大変な人件費を要するのであります。此れを機械的に中継する方式に改めるべく実験中でありまして、又、アメリカに於ては加入者のテレタイプとか、或いは複写電送と申しますが、加入者の宅内に直ちに電報が届けられるというようになりつゝあるのですが、之に就いても我国に適合した方式で相当企業化するための研究も進めて行き度いと考えております。

其の他、戦後に生産された加入者宅内用のゴム線の問題、また雨が降る毎に絶縁が下つて障害を起し易い配線函、端子函の問題も既に解決されつゝあります。また東京の中心部である丸の内に4万端子の局を建設致しまして、不足している施設を補うべく計画中ですが、今年度、漸く試験を経まして、其の第一歩を進める事になつて居る次第であります。

以上私達の当面して居る技術的な問題に就いて簡単に申し述べたのですが、次に電信電話に要する経費について少しく述べて見たいと思つて、電信電話の建設拡張に要します資金は毎年少く共200億に上るのですが、現在は漸く120億程度を用意致しました。其の他に、料金収入から減価消却と施設の補充取替の経費として年間100億を要するのですが、本年度は74億を用意致しました。その他に見返り資金120億をもちまして、一般需要の新しい電話をつける事になつて居りますが、八木先生がその委員長になつて居られます電気通信運営審議会では、検討の結果日本の電話機は現在150万ありますが、更に300万乃至400万増加しなければならぬと結論を出して居ります。然し、電話の加入希望数は毎年50万程度ありますが、之に私共対応出来るのは僅か10万程度でありまして、漸く5分の1程度より応じきれない状態でありまして、4)万程度は施設を増加する資金が必要でして、この関係から大変御迷惑をかけている次第であります。私共としましては出来るだけ早く施設を増加し、一般の御要望に応じたいと考えて居る次第であります。

尙、電話の公共性から考えまして、使用頻度の小さい、一般住宅電話は隣接の2、3以上で共同して使うと云つた様な共同加入制度をもつと普及し且その料金を安くすると云う方面にも更に研究を進めたいと考えて居る次第であります。

以上会長就任に当りまして甚だ手前味噌の様なこと許り申し上げまして、誠に御迷惑だつたことと存じますが、私共の関係して居ります電気通信事業の現状の若干をも吐露致しまして、此の事業の復興と発展のために皆様方の御後援を頂きたいと念願して居る次第であります。